



## 花粉とエイリアン

春だ。花粉症の季節だ。私自身、あまりひどい方ではないのだが、この時期は確実に目がカユくなる。発症したのは数年前なので、それ以前は「春は海外に逃亡したい!」という気持ちがわからなかった。「花粉症とかいって、クシャミしてる人が多いけれど、ホントはほかの病気なんじゃないの?」くらいに考えていたのだ。あまりシリウスになれなかった理由は、「花粉」が病原菌のようなモノと比べて日常的なものと、「目に見えない」モノであることだと思う。パソコンやゲームが、ある年齢以上の層に好印象を持たれないのも、単に知らないだけではなく「目に見えないモノ=情報」を扱っているからではないだろうか。

逆に普段は見えないモノが可視化されるのは、それだけでもおもしろい。インターネット関連で例に挙げれば、『ネオトレース』というソフトがある(Jump01)。自分が使っているマシンから、あるサーバー、IPアドレスまでの経路を、所要時間と順番だけではなく、地図上にグラフィカルに表示してくれるソフトだ。たとえば、トンガのサイト「kalianet.to」をトレースすると、東京からいったんオーストラリアを経由して、アメリカのワシントンD.C.にたどり着く。おそらく米国のレンタルサーバーを使っているのだろう。

そんな「見えないモノを見えるように」という要素を、かわいくてファンキーな遊びにってしまったゲームが登場した。ゲームボーイカラー用の『ちっちゃいエイリアン』(クリーチャーズ)(Jump02)だ。ゲームボーイカラーの「赤外線通信機能」を活用し、「光の中にいる、ちっちゃいエイリアンを捕まえ、その体に付着したススをはらって、本来は宇宙に満ちているべきその物質を、ロケットに詰め込んで宇宙に返してあげる」というものだ。エイリアンは蛍光灯の光の中によく、テレビやビデオのリモコン、意外なところでは冷蔵庫の中にもいるという。そう言われると、自分の身の回りが急にゲーム空間とつながった妙な場所に思えてくるから不思議だ。といっても、SF度の高い壮大な物語などではない。いい意味でB級な、テレビゲーム本来の楽しみに満ちた、しかし確実に新しい遊びなのだ。エイリアンにエネルギー



『ちっちゃいエイリアン』のイメージイラスト。未発表の「ジババ」バージョン! ©2001 Creatures Inc.

を与えるためにプレイする「玉が減らないパチンコ」や「RPGの戦闘の又いいの」など、どこかで見たことがあるモノのミニゲーム化が、プレイヤーの想像力を越えた演出で散りばめられている。映画で言えば、筆者最近の超イチャオシ『ギャラクシークエスト』のような「B級に見られてしまいがちなA級エンターテインメント」なのだと思う。

作者は、田中宏和さん(Jump03)。世間的には『ポケモン』の音楽作家として知られているが、実は、ファミコン黎明期の約20年前からゲーム開発に携わり、ゲームボーイの「ポケットカメラ(任天堂)などを手がけた、天才型マルチクリエイターだ。彼が『ちっちゃいエイリアン』を発想したきっかけは、実は「通信」にあったという。コンピュータが壊れてしまうような危機的な状況であっても、電話があれば「ビババ」音だけでエイリアンとコミュニケーションできるかもしれない。ポケベルが女子高生に盛んに使われていたころ、ある時間に入ってくるメッセージは、読む前にだいたい発信者がわかってしまう。深夜に誰かが自宅のドアをたたいて「電報です!」と叫べば、それは緊急な用件のはずだ……etc.。小さいデータサイズで、いかに他人(エイリアン)とコミュニケーションするのか、というきわめてインターネット的なテーマが、このゲームには隠されている。

Jump01 www.neotrace.com

Jump02 www.chailien.com

Jump03 watch.impress.co.jp/game/docs/20010213/creati.htm



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)